

令和2年度 学校評価結果公表シート

作成 新森幼稚園

1. 本園の教育目標

『明るく、健康で、心身共にたくましく、自主的に且つ創意工夫する人間味豊かな人間像を目指し、幼児（初歩）の育成に当たる。』

本園では、教育方針として下記の項目を掲げる

- *美しい情操、豊かな感情を養う
- *保育の全領域に心身の発達に即した思考教育を取り入れ、知的開発を行なう。
- *集団生活の中で、仲良く助け合える協調性を養う。
- *人格形成の基礎となる“しつけ・心”を大切にする。
- *一人一人の個性を大切にし、いつの時代にも柔軟に対応できる子を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

年々、保護者の方の要望で、同年齢の子どもと遊ぶ場が少ないので、幼稚園での集団の中で、子どもに沢山の経験をさせたいという方が多い。また、幼稚園ならではの集団での良さや家では経験できない事をさせたいという思いをよく聞く。だが初めての集団で不安もある方もいるので、初めのころは、担任との連絡をよく取り、子どもたちの様子を伝えている。年長組では、アクティブラーニングのように、自身の思いや考えを言葉で伝えるという楽しさや難しさ、相手の意見を聞き、自分との違いを知るという取り組みも行いたい。又自分の意思でやってみたいものを選び、学び、友だちや教諭との関わりを持ち、自身の思いを伝える事や、自信をもって取り組む意欲を高めさせたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
<p>1、健康・安全 一命を守るとは…</p>	<p>健康・安全の管理については、例年通り地元の警察署や消防署、区役所の安全課の方にも来園していただき、交通安全指導や防犯講習会、火災時の避難訓練等で指導を受けている。更に避難訓練では、直接指導を受けて教師も通報訓練を行い緊急時にも落ち着いて対応できるように行なった。更に、平成30年6月18日に起こった、『大阪北部地震』や、各地の『集中豪雨被害』を機に、改めて自然災害（地震・台風・大雨・雷等）に対する対応の必要性が認識された為、地震などに対する防災の面からも11月5日の『津波防災の日』に合わせて避難訓練を行なうことでより防災に対しての意識を高めさせるように紙芝居を読んで指導を行った。（毎月1回火災・地震避難訓練を行なっている。火災・地震・津波は年に1回）</p> <p>又、年間を通じては、“乾布摩擦・薄着”を習慣とし、基本的な健康づくりを続けている。</p> <p>自己評価A 学校関係者評価A</p>
<p>2、作品発表会の成果</p>	<p>第69回こども二科展は、13名入選 団体賞 特賞 第51回世界児童画展 特選2名、 入選35名、佳作多数</p> <p>日本書芸展・第8回全日本幼児書展、朝日新聞大阪本社賞1名、大阪府知事賞1名、墨運堂賞1名等計13名が様々な賞を受賞</p> <p>多くの園児が成功体験を経験することができた。</p> <p>自己評価A 学校評価A</p>
<p>3、園に対する保護者の満足度の把握</p>	<p>個人の懇談会の際のご意見や、学級委員・実行委員等の保護者の代表となる役員さんを通してのご意見、又、行事の反省や今後の課題を聞き、それを実際の保育に添わせるように具体的な場面について話し合い、次年度へ活かせるようにしている。</p> <p>自己評価A 学校関係者A</p>

4、家庭との更なる連携
ー 教育支援

本来子どもには、強い好奇心があり、それを満すために、失敗したり壁にぶつかったり、試行錯誤しながら自分の力でやり遂げることによって満足感を得、それが成長につながるものであるはずが、現代社会においては、大人に作られ出来上がった物が与えられたり、少子化の影響もあり親が子どもにかかわりすぎて、子どもに代わって問題解決をしてしまうなど、本来子どもの持つ『考える力』が育っていない。そこで、当園では、幼児期からいろいろな頭の使い方（認知・記憶・拡散思考・集中思考・評価）を体験することによって考える力（問題解決能力）が付き、あたまがやわらかくなる（創造性柔軟性）という南カルフォルニア大学名誉教授、元全米心理学会会長のJ．Pギルフォード博士の提唱する知能構造論という理論に基づく『S I あそび』という教育活動を、実際に保育に取り入れていくだけでなく、在園児の保護者だけでなく、未就園児の保護者も対象に含めてS I 遊びの教育理念、本来の子どもたちが持つ生きていく力を伸ばすために動画を通して講演会を開いた。

又、教員については特に教育者として専門的な研修指導を受け、通常の保育に生かせるようにしている。

更に、幼稚園では、保護者の皆様が心配事や些細な子どもさんの変化などでも気軽に相談できるように信頼関係を築き、必要な場合は、大阪市の相談員・幼稚園の園医さん・臨床心理の先生等とも相談をし、具体的な対応をしながら園児の成長を見守っていくようにしている。

自己評価A 学校関係者評価A

<p>5、幼稚園行事の充実</p>	<p>*年長児よりアートクラブ（書道、絵画、ダンス、音楽、増設）という4つの特別クラスを作り、子どもが好きなアートを選び1年間かけて、友だちや先生と楽しく学んでいく保育を始めた。通常とは違う友だちや担任との関わりを持ち、自信を持って取り組めるように、声をかけ、自由に表現し学ぶ機会を増やした。この様子や成果を動画や展覧会で保護者の方に披露し、高評価を得た。アクティブラーニングによる教材の使用も増え、子どもたちの様々な発想力や表現力が増えた。</p> <p>*遊園地の減少、目的地までの距離と所要時間、バスの台数の確保の難しさ、代金等について保護者の皆様の負担が年々大きくなった為、新しい目的地等も検討した結果で、保護者の皆様の負担の軽減も考慮し、現地集合・現地解散の近隣の遊園地で行っている。本年度は団体での取り組みになるので、中止としたが、子どもたちのみでの遠足は行った。</p> <p>*お泊り保育では26年度より行き先を変更することにより所要時間が短くなって子どもたちの身体的負担を軽減することができた。宿坊に泊まることで普段では出来ない体験を予定していたが、本年度は、日帰りでの予定だったが、天候により園内での取り組みに切り替え日頃関わりが少ない保育者や年少組・年中組の時の保育者との関わりが持てるような1日にできた。</p> <p>*ご協力をいただいている運動会や発表会では、近年仕事をされているお母さんが増えていることも踏まえ、色々な角度から負担を軽減できるようにして行く事を考えてきた。24年度より衣裳の素地を変更することで集まっていた日数を減らしたり、予算も削減することが出来ている。運動会でも鼓笛隊の充実をはかり、競技の質を高めながら、学年別で取り組む事で、時間短縮・人数制限を考え取り組めた。</p> <p>*外部講師の授業も増え、子ども達がより様々な経験をする機会が増えた。</p> <p>自己評価A 学校関係者評価A</p>
<p>6、幼児の基本的生活習慣の身につけ方の見直し</p>	<p>4月より幼稚園生活を始めるに当たって、新入園児さん・保護者の皆様には園生活への不安をなくし、幼稚園としては新入園児に関する出来るだけ多くの情報を得る為、保護者の皆様からは、新入園児がどの様なことに興味・関心を持ち、家庭ではどの様な経験をされている</p>

	<p>のか等を知らせてもらい、又、幼稚園からは園生活はどのようなものであるかの情報を入園前までに提供し、具体的にどのような事をすればよいかを知らせ、それぞれの園児に合わせて、不足している経験等を補ってもらうことで安心感を持ってもらえるようにした。又、『在園児』についても、進級するに当たって同様に情報を提供し、それぞれの子どもの成長を知ってもらうとともに、進級に向けて個人的に不足している経験等を家庭でも補ってもらった。</p> <p>自己評価 A 学校関係者 A</p>
--	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>取り組むべき課題に対して、[健康・安全管理]に関しては、いつ起こるかわからない自然災害に対して訓練の大切さを理解し、具体的に訓練を行なうことが出来た。更に、『交通安全指導』を通して、災害だけでなく自分達の身に降りかかる事件が起こりうるかもしれないことを知り、防犯に対しての意識も強くなったと思う。</p> <p>又、[教育支援（家庭との更なる連携）]に関しては、在園児さんのみならず、新入園児さんに対しても早い段階で、情報を交換することで子ども達をよく理解し、よりスムーズに園生活を始めることが出来たと思われる。又、コロナ対策により専門家の教授による動画での講習会を行なった事で、幼児期の大切さや幼稚園に対する保護者の幼稚園に対する理解も深まったと思われる。</p> <p>[幼稚園行事の充実]に関しては、いろいろな条件で状況が変わるので、今後もその時のニーズにあわせた適切な対応が必要と思われる。</p> <p>自己評価 A 学校評価 A</p>
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
-----	----------

<p>教育支援 専門家による指導</p>	<p>学校法人の幼稚園として小学校、中学校に繋がる教育ができるように工夫する。</p> <p>それぞれの子どもにとって本当に必要な教育支援を検討していくと共に、教員や保護者に対しても悩みや不安を取り除く事ができるように昨年度に引き続き専門家による指導も充実させていく事で教育の質も向上させたい。</p> <p>具体的には、平成 28 年度の実績を踏まえて、小学校、中学校に導入されるアクティブラーニングに対応すべく、取り組みを増やしていく事と、園児 1 人ひとりの個性を伸ばすべく、自主的にコースを選べるようにアートクラブ（書道、絵画、音楽ダンスの 3 コース）を取り組んでいる。又、英語教育の充実を図るべく、外人講師による指導時間の充実を図る。知能教育玩具の充実を図る。</p>
<p>防災対策</p>	<p>避難の仕方や取り組み方を職員と協議し、今までとは違い、職員が不安な所を消防署の方にも相談しながら避難の仕方を決めている。今後懸念される大地震や、大雨・暴風等による突然の災害に対する防災対策については、幼稚園だけでなく、警察・消防・自治会など地域とのつながりを更に深くし、より確かな防災対策をとっていきたい。絵本や紙芝居等でこども達のイメージや理解を深める。又、特別警報や近くの河川の水位の状況から避難対策等考えていきたい。</p>

6、学校関係者の評価

<p>その 1</p>	<p>白濱洋征 若い先生が増えておられ、指導法など思考教育についての研究に取り組み、年々変わる子供達の様子にも対応できるよう積極的に研修にも取り組まれていました。</p> <p>知能教育に長年取組まれ、子どもの集中力と創造力をバランスよく育てておられると思います。個々の園児を注視し、必要に応じて言葉掛けを行い、やる気を刺激しながらほめて育てる姿勢は大変評価できると思います。</p>
<p>その 2</p>	

保護者代表（M.U氏） 園児の将来を見据え、文部科学省の新方針にも沿いながら、年長児のアートクラブを研究し、実践している姿勢は大変評価できると思います。また、園児一人ひとりの個性を尊重し、長所をより育てていただき大変感謝しております。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

新森幼稚園自己評価 令和2年度分

- 1、P l a n（計画）：本年度の重点目標は小学校への接続を意識したアクティブラーニングの取り組みをより深める。また、自身の思いを伝え自信を持って取り組む意欲を高める事ができるよう、研修を計画した。
- 2、D o（実行）：1の計画に沿って、カリキュラムを実行した。
 - ① 健康と安全を守る命の教育を実施。具体的には、警察消防の協力による防災、交通安全指導、運河に近い為に、津波に対する指導も行なった。
 - ② 作品発表と成果：子ども二科展（特賞）や世界児童画展、全日本幼児書展（優秀園賞）等多数の入賞を果たした。
 - ③ 保護者の満足度：懇談などを通してご協力いただき、その満足度を話し合う機会を役員さんと重ね改善する事ができた。コロナ対策なども理解し協力してもらえた。
 - ④ 家庭との連携：子どもの好奇心を満たす、試行錯誤を認めるという方針をS I教育を中心に行い、趣旨をご家庭にも理解いただき、市の相談員、園医とも協力し、地域全体で子育て協力体制を構築する事ができた。
 - ⑤ 行事の充実：年長に選択制コースを取り入れ芸術活動を自ら選択してより深くより楽しく取り組む事ができた。宿泊保育は近場に変更することで保護者の安心感増加、園児の身体的負担軽減ができた。外部講師の保育時間も増え、外国語にも力を入れる事ができた。
 - ⑥ 新入園児の基本的な生活習慣：進級ではない新入の園児さんにとって難しい集団生活と一般的な生活習慣の両方を一度に身につけることの困難を予測して、保護者の方

には前もって詳しく知らせ、安心してもらえるように配慮した。

- ⑦ 保育内容の充実：アクティブラーニングを取り入れるためにグループ学習の教材も取り組み、担任は試行錯誤しながらではあったが、子供たちは様々な回答を自由に発言していた。今後、担任のスキルを向上させるとともに、小学校に向けて子どもたちの新たな可能性を引き出せるように取り組んでいきたい。

3、C h e c k（評価）：以上の①～⑥に関して、ほぼ目標を達成できたと考える。
従って、評価はAとした。

4、A c t（改善）：実施が計画に沿っていない部分を調べて改善をする。

- ① 特別支援の必要な園児に対して、従来よりベテランの補助教員をあてるなど対応してきたが、小学校中学校への連携を考え、一貫した方針で教育できるよう特別支援の研修や教育アドバイザーの研修を踏まえさらに改善していきたい。
- ② アクティブラーニングをさらに取り入れるため、キャンディキッズの導入や知能教育玩具の追加、知能保育ソフトの購入並びに保育者の研修を重ね、各先生とのコミュニケーションを通して、年少組は月1回、年中、年長組は月3回との目標を明確化し、子供たちの可能性を最大限引き出せるように取り組んでいきたい。
- ③ PC教育をより充実させ、プログラミング教育導入に取り組んでいきたい。